

特殊なラミネート加工に特化。
 一歩先を行く技術とノウハウは、
 どこにも負けない。



シンコーラミ工業株式会社
 河原崎哲哉 代表取締役社長

あらゆる樹脂を知りつくす ラミネート加工のプロ

一般にラミネートと聞くと、紙をフィルムではさみ、コーティングするものを思い浮かべるでしょう。しかしラミネートとは本来、複数の素材を貼り合わせて層にするもので、弊社が行うのは中でも「押し出しラミネート」です。ポリエチレンなどの樹脂を熱で溶かし、圧力をかけて押し出し薄いフィルムにしたものを、さまざまな素材と貼り合わせます。この技術を用い、吸水する素材と防水性の高いフィルムを組み合わせ、手術や検診などで使われる医療用シーツなどの製品を作っています。

弊社の歴史は下駄など木工製作に始まり、その後今の前身であるパール紙工では、生理用品やペットシーツといった吸水体をメインとした製品を作るようになりました。しかしこれら製品を作る機械は吸水体しか作れず、他の商品への展開ができないのです。そこで先代の社長（現会長）が着目したのが、吸水体の中に入っている防水フィルムでした。

いつも変わらず需要のある市場。 それがメディカル

先代はこのフィルムを様々な素材に貼り合わせる技術に特化し、新たな事業として会社を立ち上げました。その社名として新たなことを始める「新興」と自身の名前（信幸）を音読みにした「しんこう」から「シンコーラミ」としたのです。

ここで主力製品となったのが医療用品で、現在では6割～7割を占めます。医療は社会を支え、絶えず必要とされるものです。医療用品を作るには衛生面が最も重要ですから、防虫・防塵には細心の注意を払っています。工場周辺の清掃などを定期的に行い、工場内の気圧を高めて虫や粉塵の侵入を防ぐなど、さまざまな対策をとっています。これだけの厳重な衛生状態を保てる工場は、国内でも数えるほどしかありません。



大量生産できないからこそ、 作れるものがある

押し出しラミネートは一般に、樹脂を他素材と貼り合わせる加工が難しいとされます。が、弊社はさらにその根本となる樹脂を押し出す技術に長けており、他社ではできない加工ができます。ただ、大手のような大量生産はできません。そこでニッチな分野を狙い、特殊な樹脂を追い求めるに至ったのです。

樹脂はそれぞれ性質も溶かす温度も異なり、使う樹脂を替える度に機械を止めて清掃しなければなりません。普通は専門業者を使い、1～2日かける非常に大変な作業です。そのため、大抵は数種類しか扱いません。一方、弊社はブレンドも合わせると100種類近くを使います。樹脂を頻繁に入れ替えるので、清掃も効率良く行い約2時間で完了。メンテナンスもすべて自社で行います。つまり、樹脂に精通しているのです。

会社経営も、ものづくりも、 大切なのは信頼関係

最も大切にしているのは信頼関係です。製品の品質を高めるには、会社と社員、取引先の信頼関係が必須です。弊社ではその理念を「品質方針」として掲げていますが、これは幼い頃から、先代である父から言い聞かされてきました。そこで、社員の働きやすさを第一に考えています。私自身、現場から入りましたから、その大変さはよくわかります。3交代勤務ですし、かつては過酷な職場でした。だからこそ、空調など労働環境の改善に努めたのです。常に社員が安心して気持ちよく働ける、信頼できる会社でなければならぬと思っています。



この15年ほどで急成長したこともあり、社員は若い世代が多く、平均年齢は38歳です。社員はすべて私が自ら採用しているのですが、良い意味で変わった子が多いですよ。面白いことができる、社内を盛り上げてくれるようなタイプですね。

営業の要は お客様が求めるものを売ること

弊社の営業は大変です。パズルのピースを当てはめるように、お客様の要望に合ったものを提案し、売らなければなりません。そのためまずは必ず現場に入り、1年～1年半の研修を行います。製品知識を徹底的に学び、さらに現場との人間関係を築いてもらいます。その両方なくして、営業は勤まりませんから。今の時代に合った丁寧な指導ができるよう、このシステムを採用するようになってから、営業職の離職率は減りましたね。

多様な樹脂を扱い続けてきた結果、最近では新たな樹脂が発売されると、メーカーから問い合わせを受けるようになりました。お客様の側からこんな商品が作りたい、という相談が来るのです。弊社が培ってきた技術が、認められた証だと思います。

常に新たな市場を開拓することが 未来につながる

コストダウンで対抗してくる競合相手に打ち勝つべく、常に新しい市場を開拓しています。最近ではホットメルト[※]も導入し、業務の幅もさらに拡大しました。業界の先駆者として、また経営者として攻める姿勢を持ち続けるためにも、2～3年後だけでなく、さらに10年、15年先をも見据えた事業展開を考えています。私がそうだったように、父親の背中を見て息子が後を継ぎたい、と思ってくれるような仕事をしたいですね。

- 会社名/シンコーラミ工業株式会社
 - 代表取締役社長/河原崎 哲哉
 - 所在地/（本社工場）静岡県富士宮市北山4839-16（第二工場）静岡県富士宮市東阿幸地306番地（第三工場）静岡県富士宮市外神字大谷1844番地（東京営業所）東京都千代田区神田佐久間町3-16/パークアックス秋葉原704
 - TEL / 0544- 58-5022 FAX / 0544- 58-4514
 - 設立 / 1982年
 - 事業内容 / 特殊技術を活かしたさまざまな基材へのラミネート加工や、新素材の開発および新商品の開発
 - 取扱品目 / メディカル [医療用シーツ（不織布・布）、メディカルエプロン、デンタル]、建材関係 [床下材、緩衝材、ルーフィング材、襖紙]、日用雑貨関係 [ペットシーツ、キッチンなどの滑り止めマットなど]、食品関係 [ベーキングカップ、パーガーラップ、菓子個包装紙など]、特殊製品 [各種樹脂使用製品]
- http://www.shinko-lami.co.jp/

企業データ

SHINKO LAMI



※溶かした樹脂を不織布などに吹き付け、貼り合わせる方法。樹脂フィルムを貼る方法と異なり、通気性を保ったままラミネートできる。